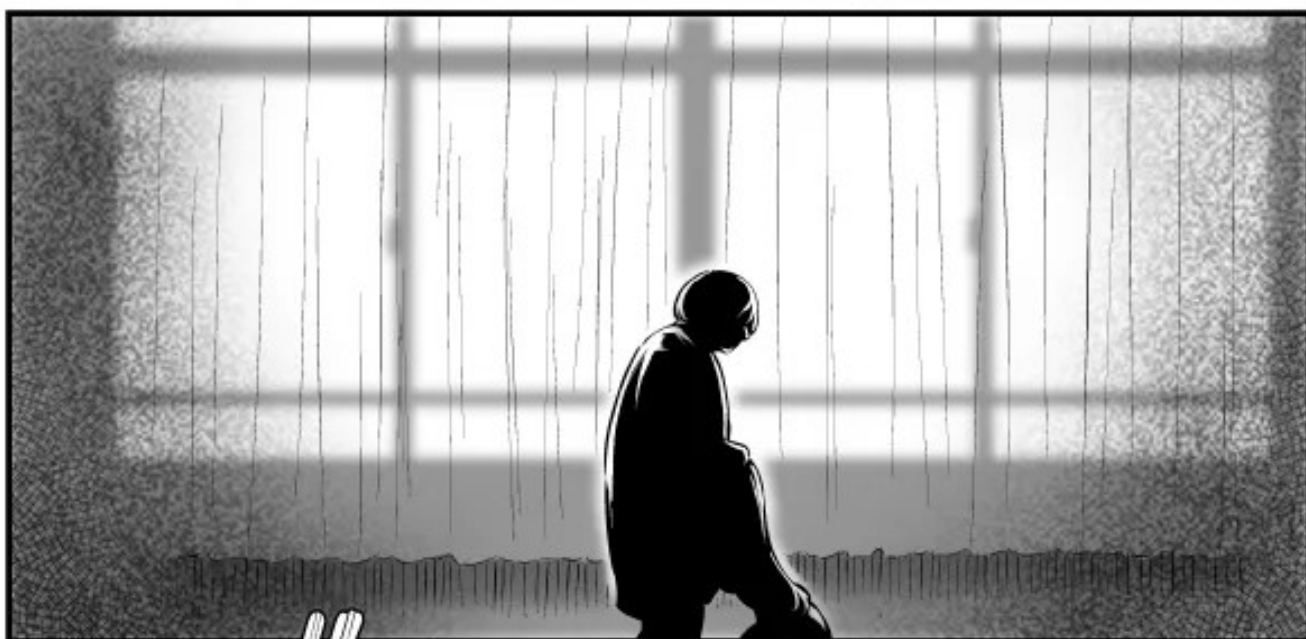
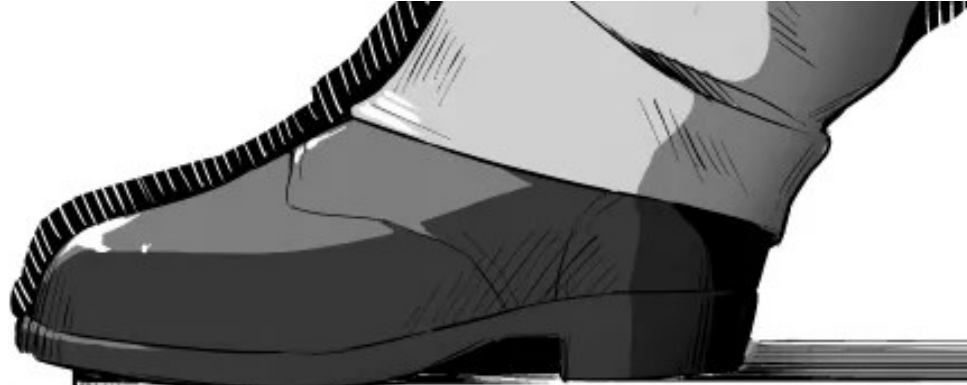
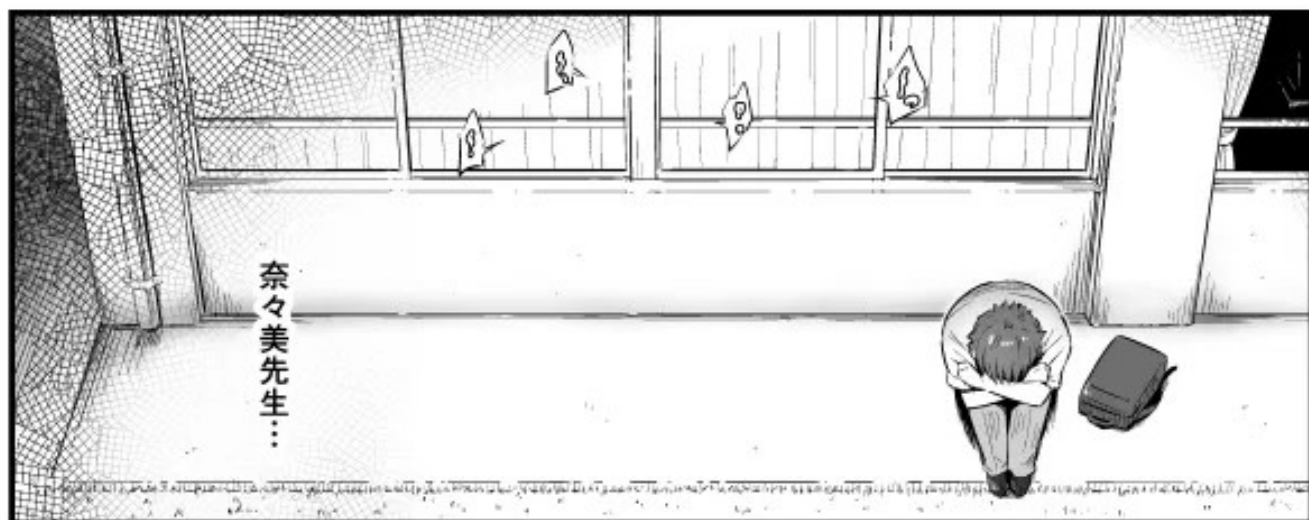


なんで...







30
分
前

ああ
来てくれましたか

…なにか
御用ですか？

ふふ…

奈々美先生





どうだった？

あれから



そ…

そんなこと…っ！



ここ数日

体調不良ということ
休んでいたみたいだが…



な…なにが…

ですか…？

とぼけなくて
いいぞ？

ずっと僕のことを
想っていて
くれたんだろう？



疼いただろう？

身体が
求めただろう？

僕を想いながら
火照った身体を—







そんなこと…

ありません……っ！



それに…

わたしは教師を
辞めるつもりです…

なに？



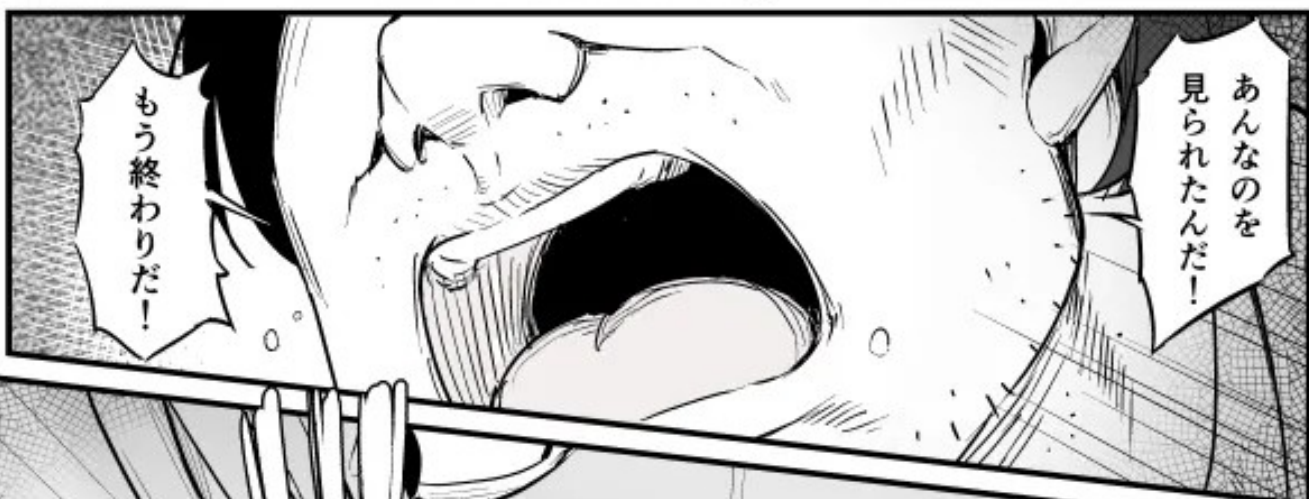
あんなところを
辻くんに…

生徒に
見られたんです

ここにはもう
居られません…

まだ辻を
「気にするのか…?!」





思い出せっ！

これで膣内^{なか}を
掻き回されたことを！

思い出せっ！

誰に気持ちよく
させて貰ったかを！

辻では無理なんだ！

僕じゃなきゃ
ダメなんだっ！

辻なんか見るなっ！

僕だけを見ろっ！！

僕を愛せっ！！

……っ





だからこうやって

僕にまた身体を
委ねてるんだ！



思い出したかった？

もう僕のことを
愛おしくて
たまらないだろう？！



気持ちいいだろ
奈々美っ！

どうだっ！

ぐちゃ、
ぐちゃ、
ぐちゃ、



愛お……た……

これは…

辻くんを守る為…

ですっ

また辻っ！

辻っ！！

辻っ！！

ならそんながんばってる
奈々美の姿を

そうか！

辻にもまた
見せてやらなければな！

今録画しているデータを
辻に送ってやろう
それであいつも
奈々美に感謝するだろう！

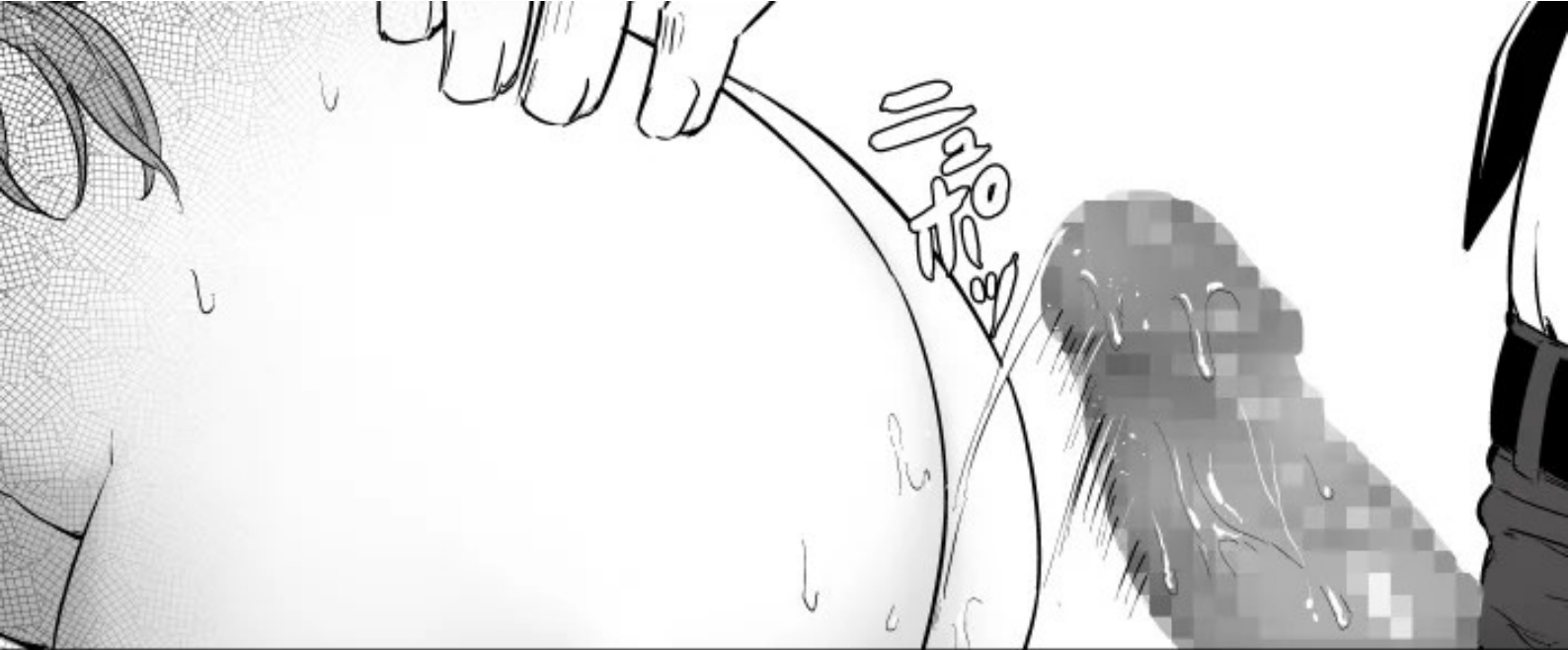
そんなっ！

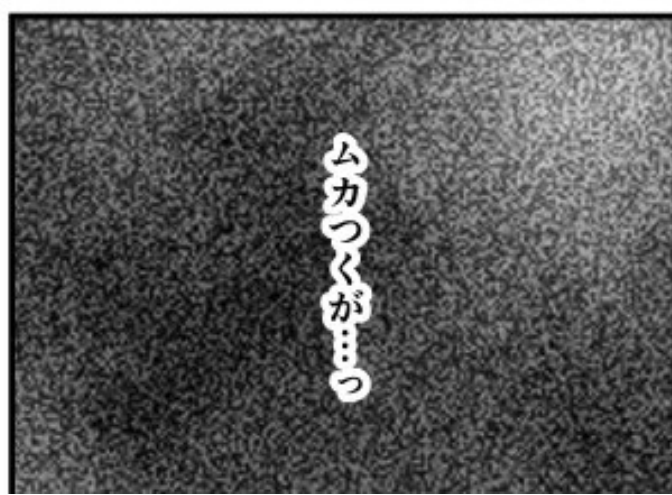
それだけは
許してください！

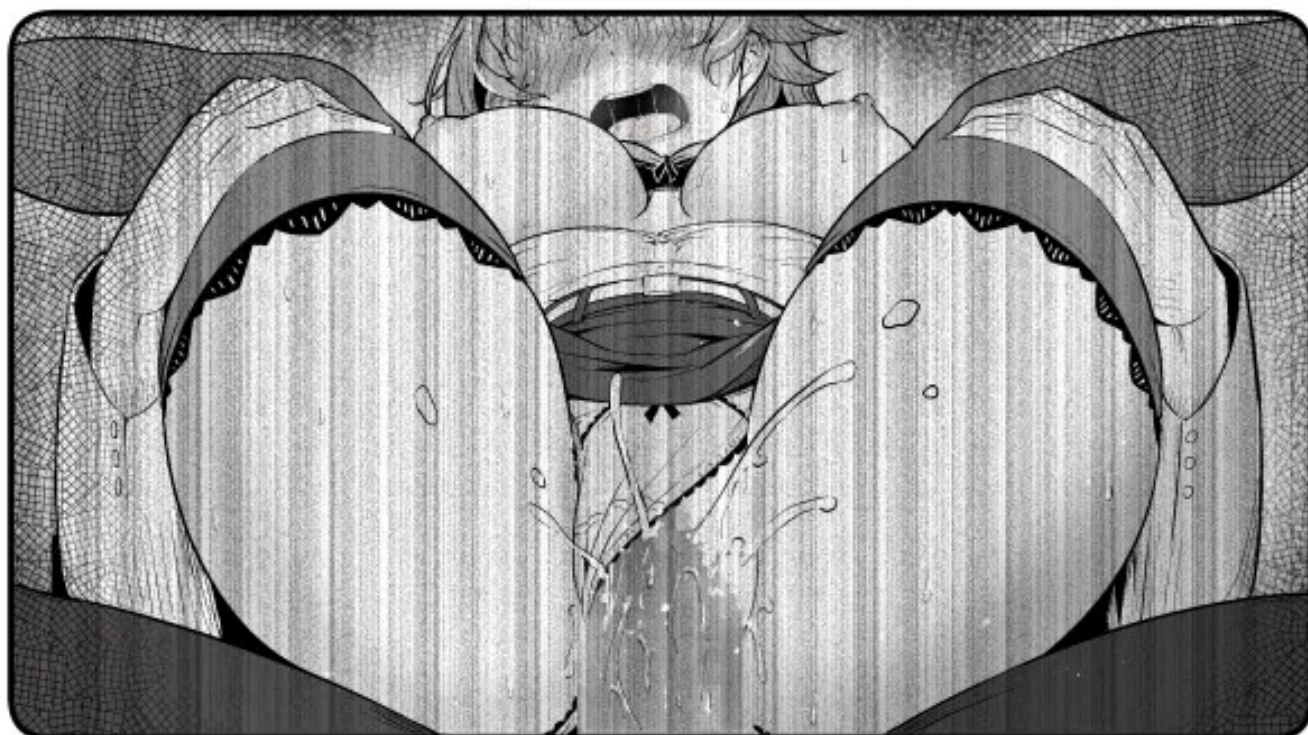
これ以上辻くんを
傷付けたくない！

えっ？！

うるさい！！







数日後

放課後

奈々美先生が
オレの名前を言った

やっぱり
奈々美先生

なにかオレの為に
無理して……

今日もこれから……

辻

ちょっといいか？

な……何の用だよ……

ふ……
教師に対する
言葉使いじゃないな

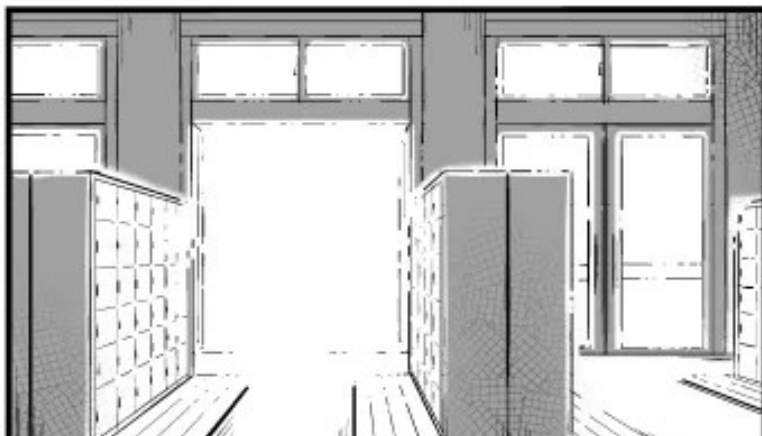
まあいい

奈々美のことだ……

竹田……？！







化学準備室





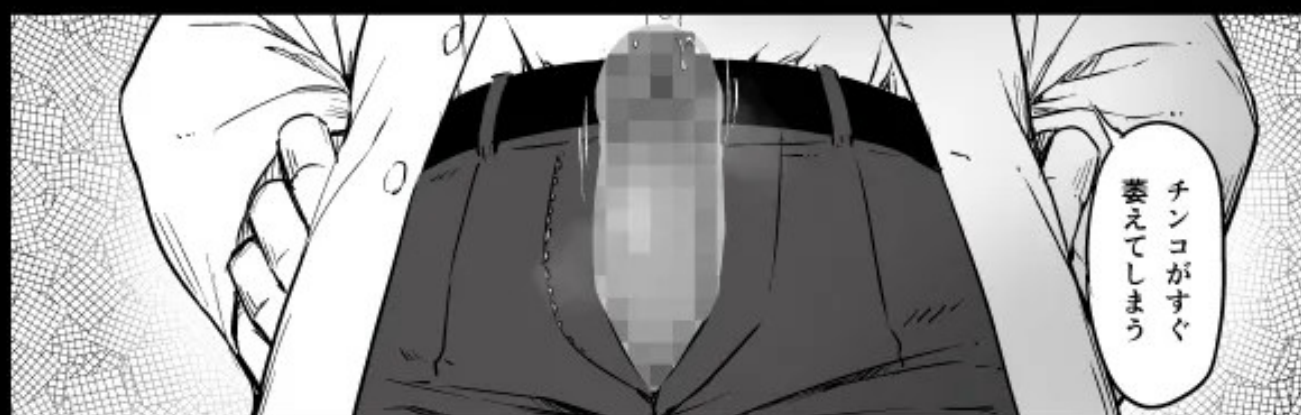
奈々美先生…?!



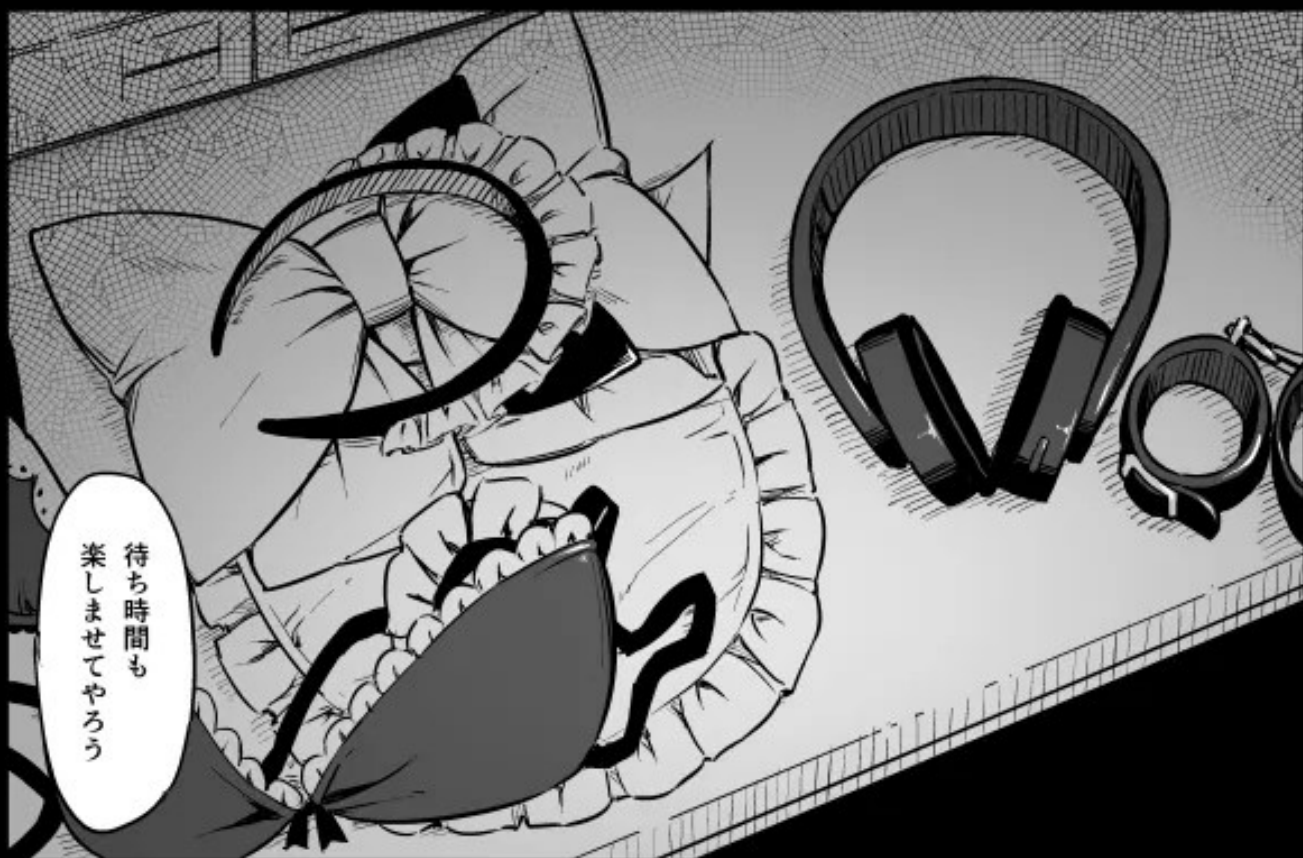














1回だけだ

憧れの奈々美先生を
味合わせてやる

いいぞ

はあ?!

ふ...
ふざけんな...っ

ん~?

いいのか?

奈々美を好きにして

?!

こんなチャンスは

もう来ないぞ?





奈々美先生と

二人っきり



竹田が
居ない今なら

奈々美先生を
解放できるじゃないか!!

そうだ...っ



でも

解放して
どうなる?

奈々美先生はもう
竹田を受け入れてる

それにここで
目隠しを外して

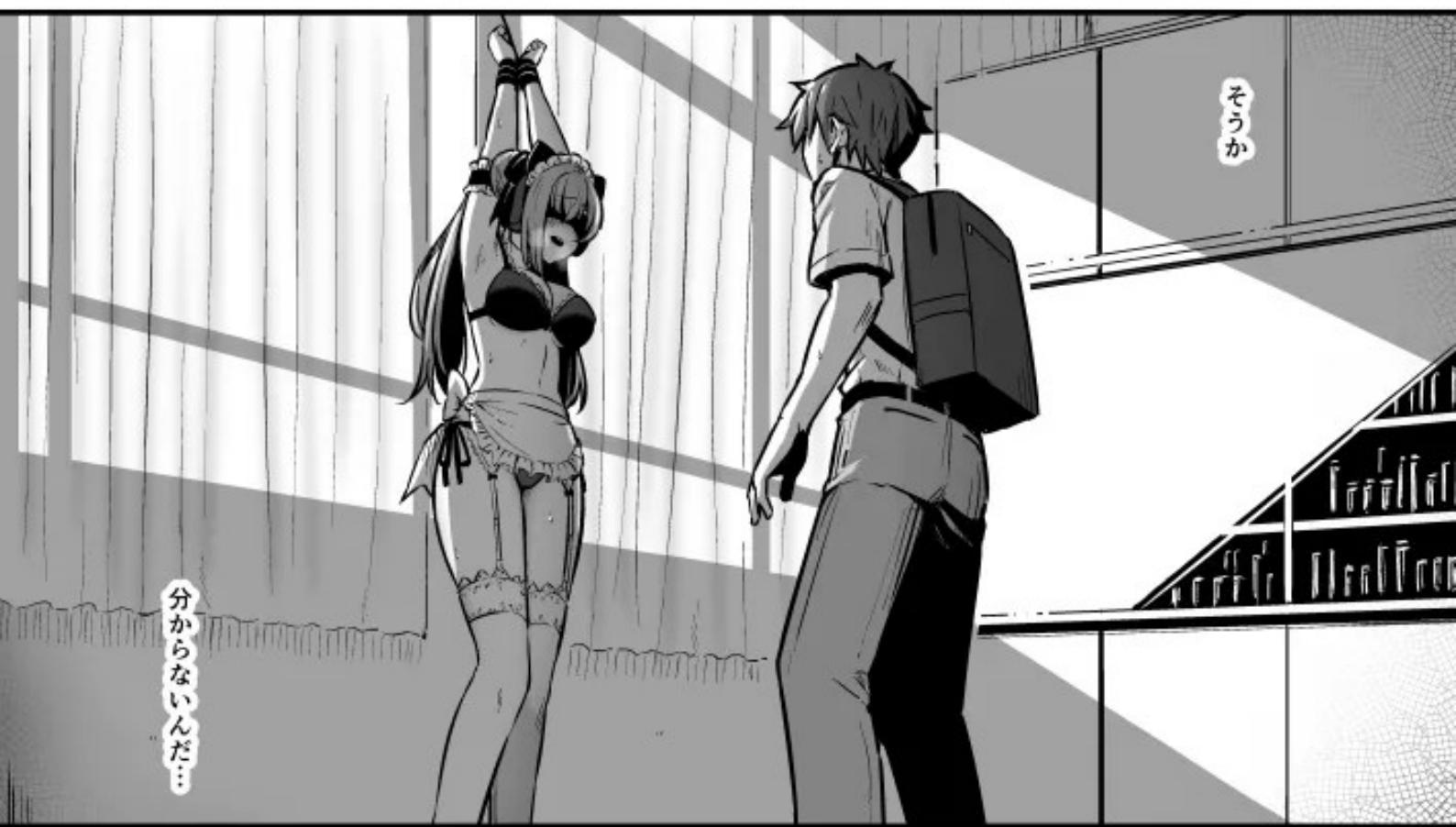
居ないはずのオレを見て
奈々美先生はどう思う?

あ...



今ここに居るのは
オレだと

分からないんだ



そうか

分からないんだ…















はぁ...っ

はぁ...っ

あぁ...

あ...



奈々美先生っ!



この甘い香りの

いつも隣でっ

くんくん

くん



奈々美先生っ!

もにゃ、もにゃ、

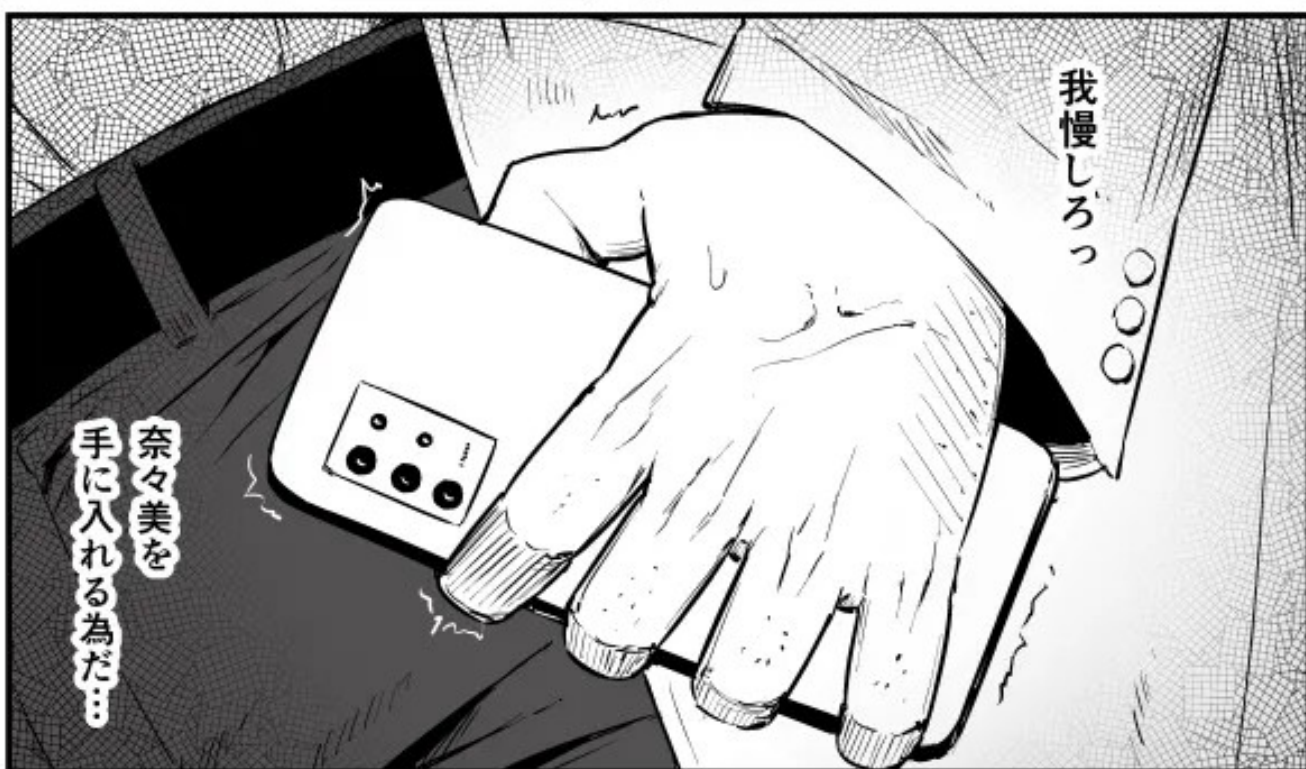
奈々美先生っ!



オレの大好きな...

しゃるる

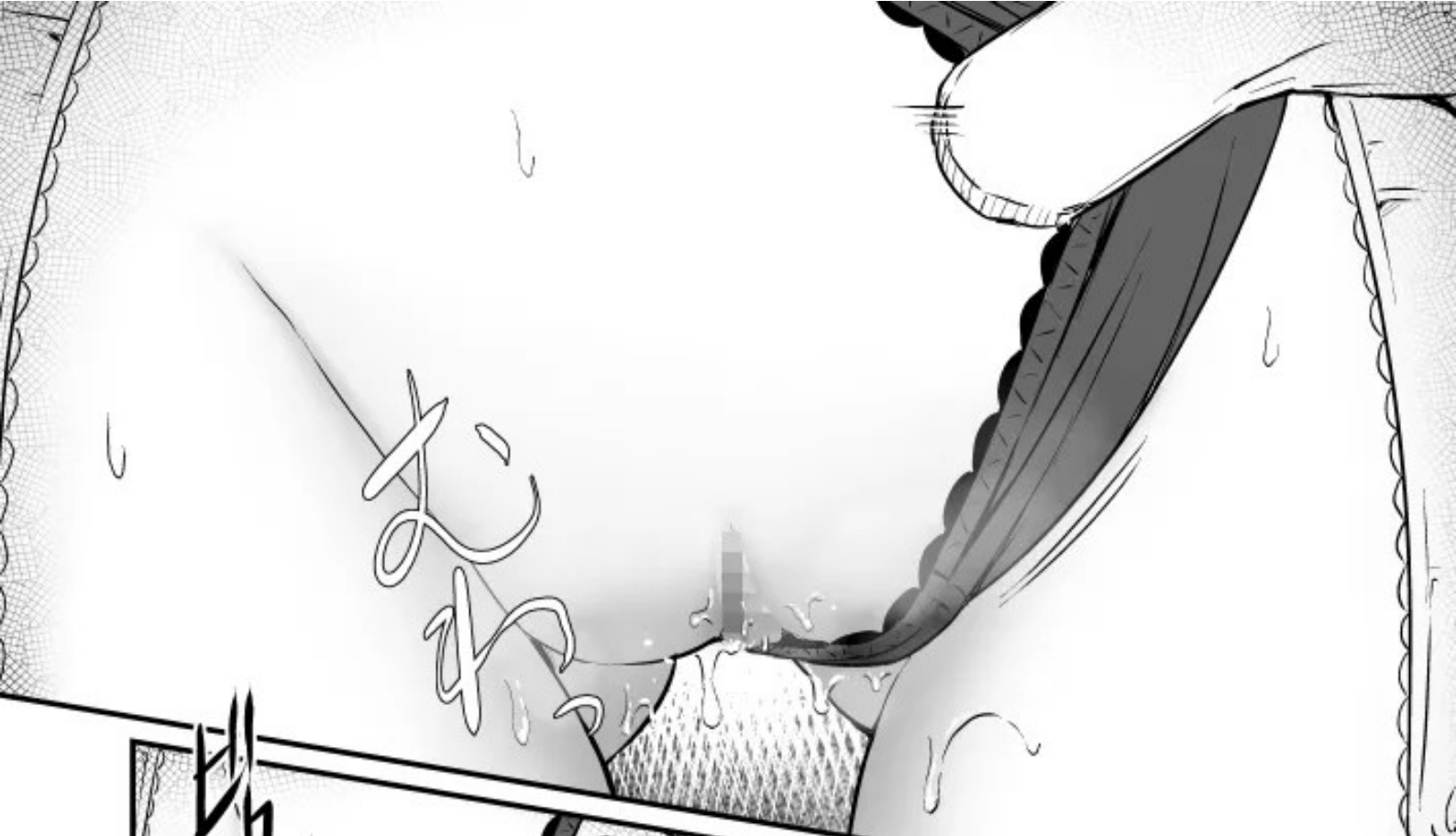


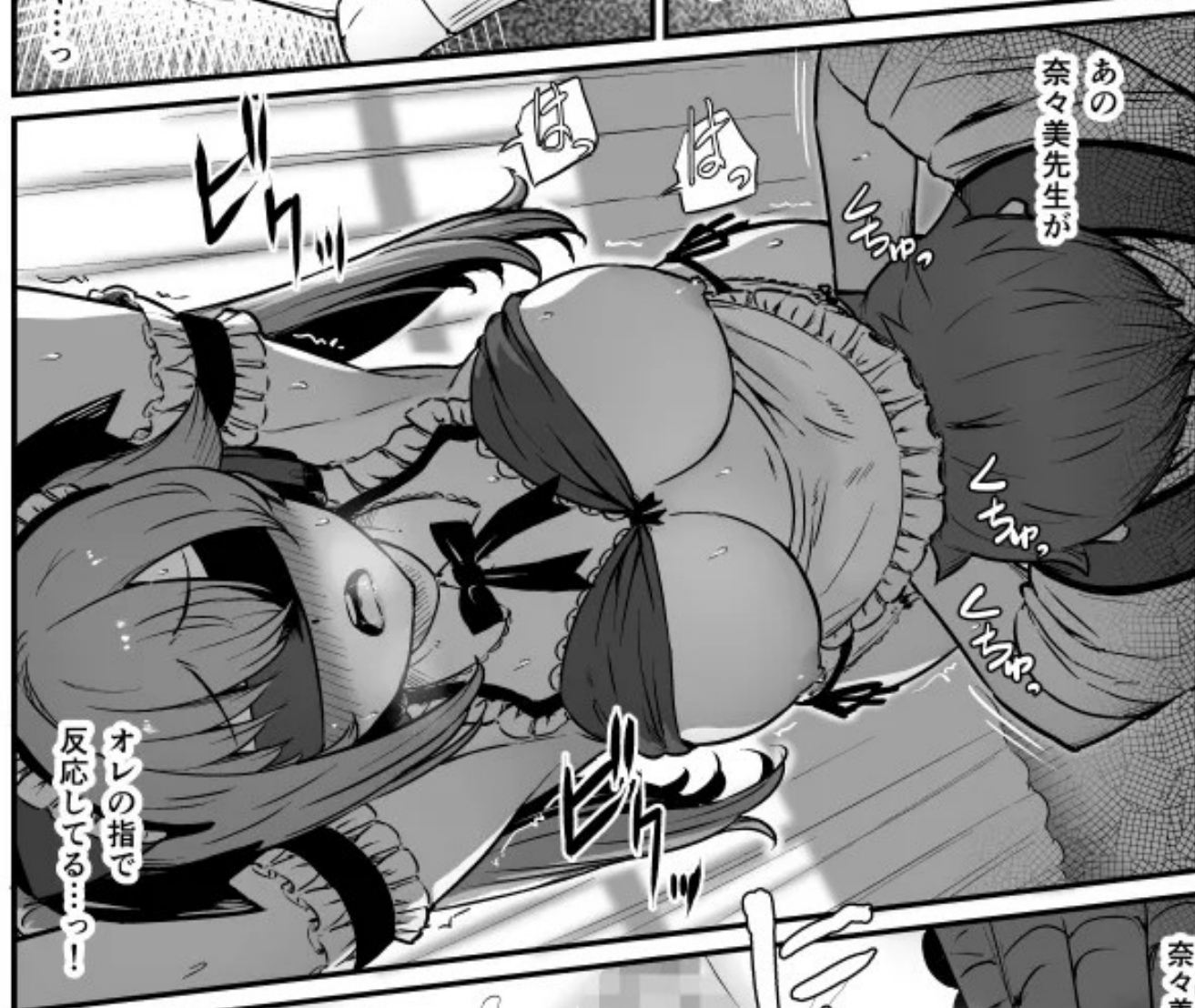




奈々美先生の
体温っ！
匂いっ！















こ…
これが

奈々美先生の

腔内…
なか

すごい熱くて…

ぐちよぐちよ



はあっ!

はあっ!

溶ける…っ!



気持ちいいっ!



ダメだと
思っているながら

いつも妄想していた

その奈々美先生に

オレは…っ!!



奈々美先生っ!!

好きだ!

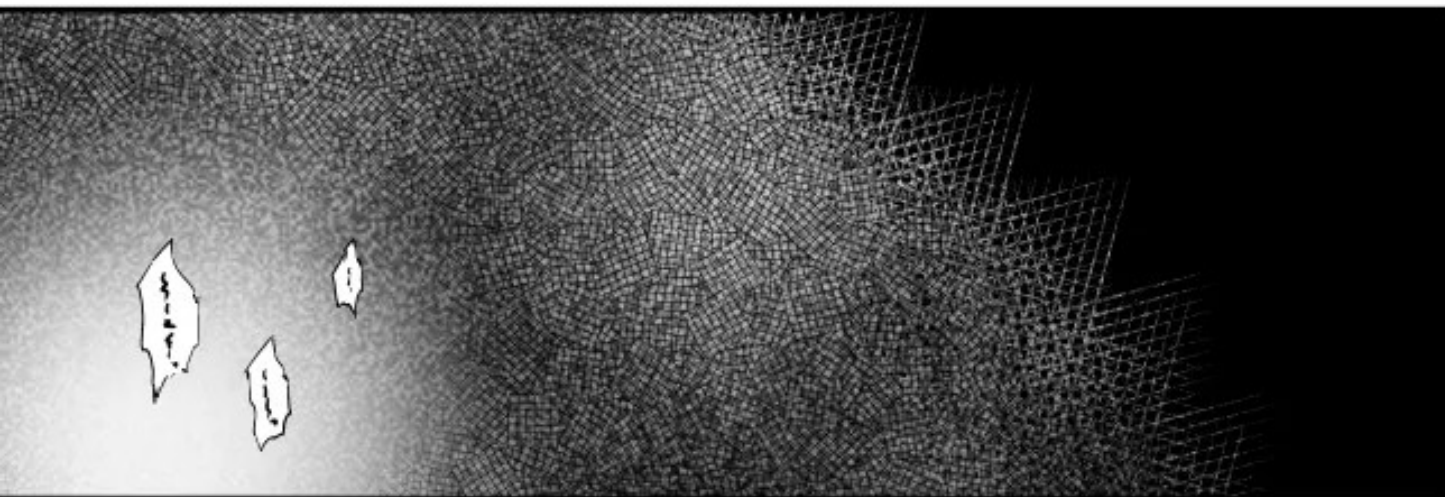
好きだ!

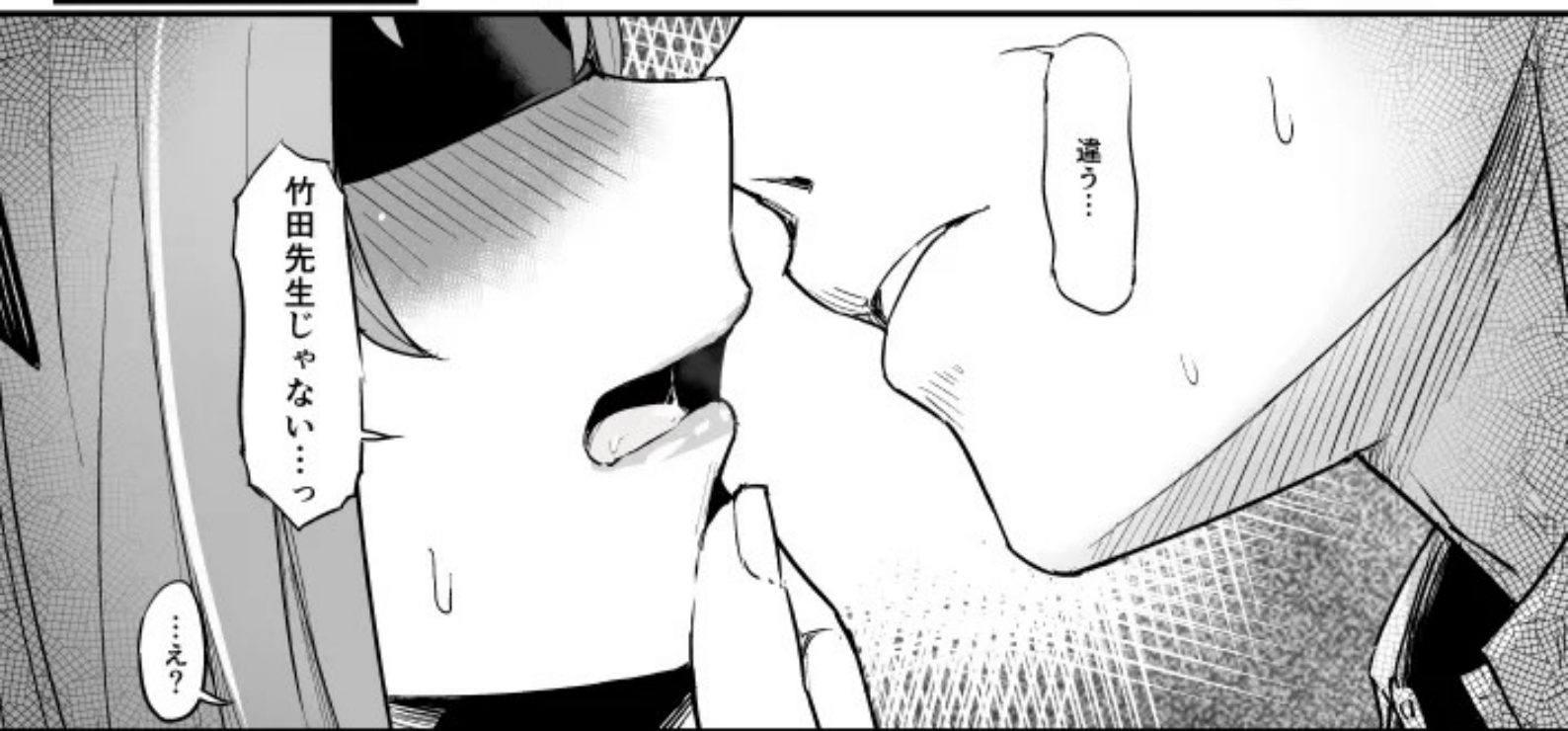
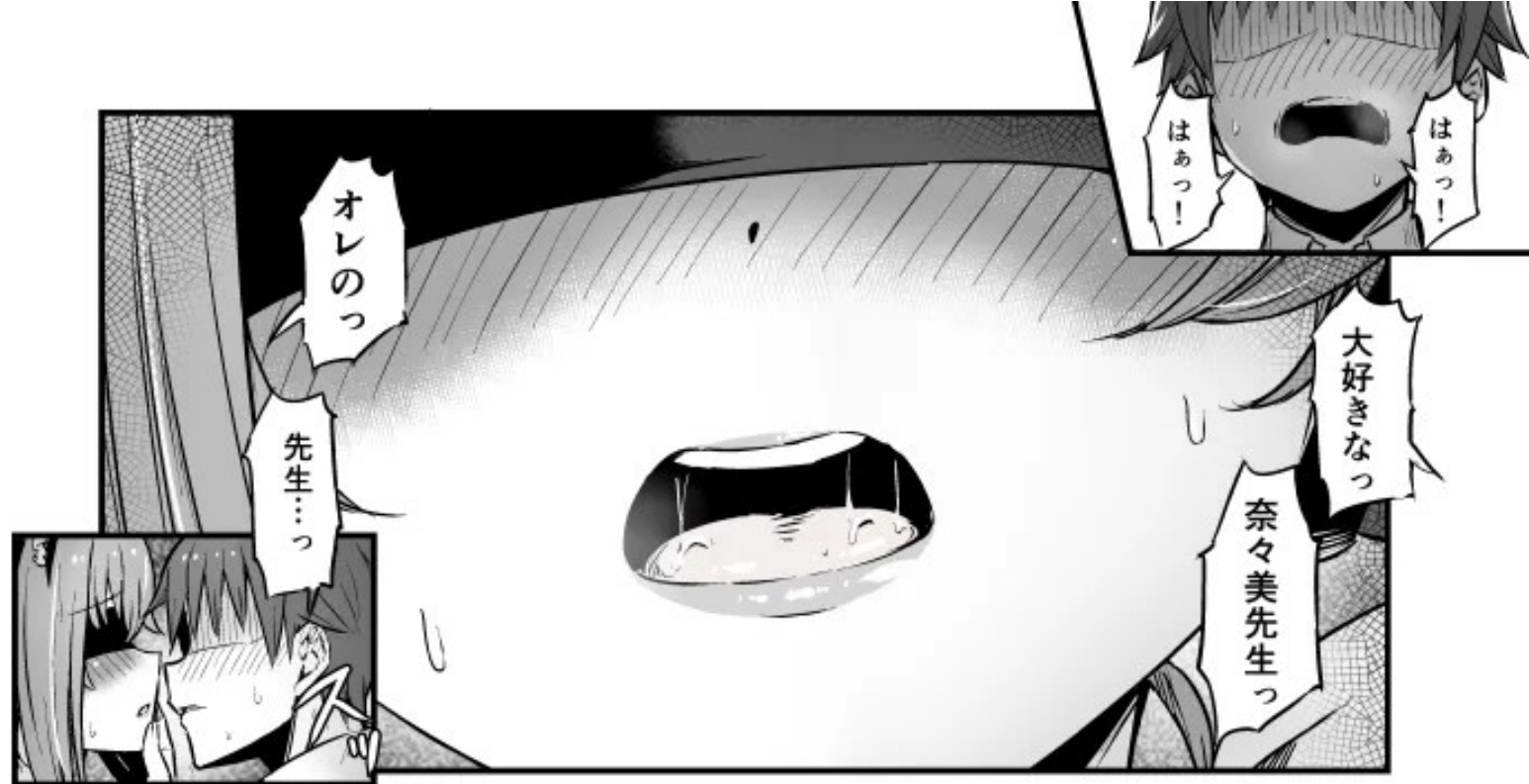


好きだ!!

くちゅっ

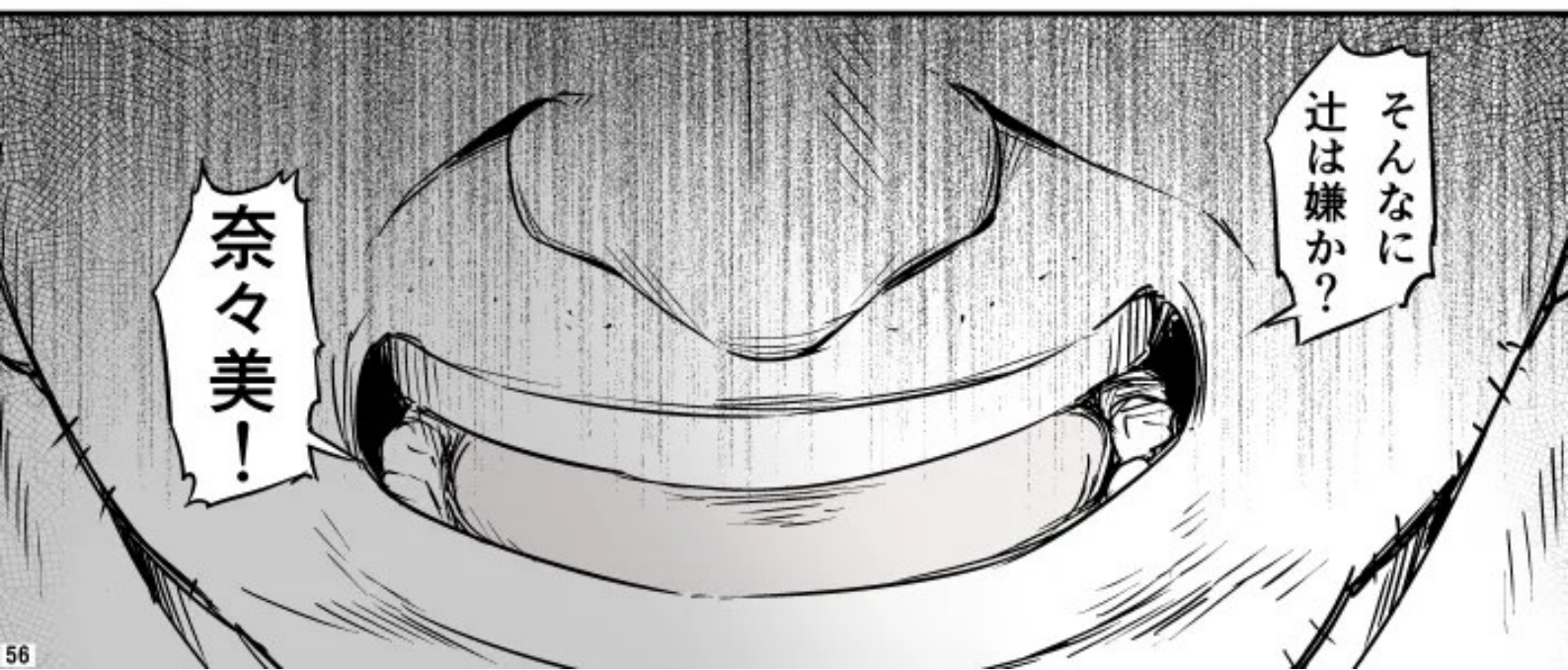
くちゅっ















辻のちんぽは
どうだった？

!



全然声も
出てなかったな

僕との時は
あれだけ声をあげるのに

満足できなかったんじゃないのか？



そ…

そんなこと…



どうだ？

僕のこれが
恋しいだろ？





ここ数日

ずっとおまえが
待ち望んでいたものだ！

こうやって

疼く膣内をつ

掻き回して
欲しかったんだろっ？！

奈々美先生…

オレの時とは
全然違う…

こいつのが
そんなに



気持ちいいの...?



ああ、
すごい
吸い付きだっ

やっぱり
僕のちんぽが
好きだった！

こっちの
ちんぽのほう
が
イイって

辻に
言
っ
て
や
れ
！







ここを
擦ってからっ



こうだっ!!



まだ
分からないのかっ!?

おまえの身体は
僕が一番知っているんだ!



ほらっ!

ほらっ!

ほらっ!

たまらないだろ?!

ほらっ!!



なか
膣内
が
きゅきゅつと
締まってきたな!

いきそうなんだろ?!

もちろん
分かってるぞ?!

ほらいけっ!

いけっ!

辻なんか
無視して
盛大にっ

いけっ!!

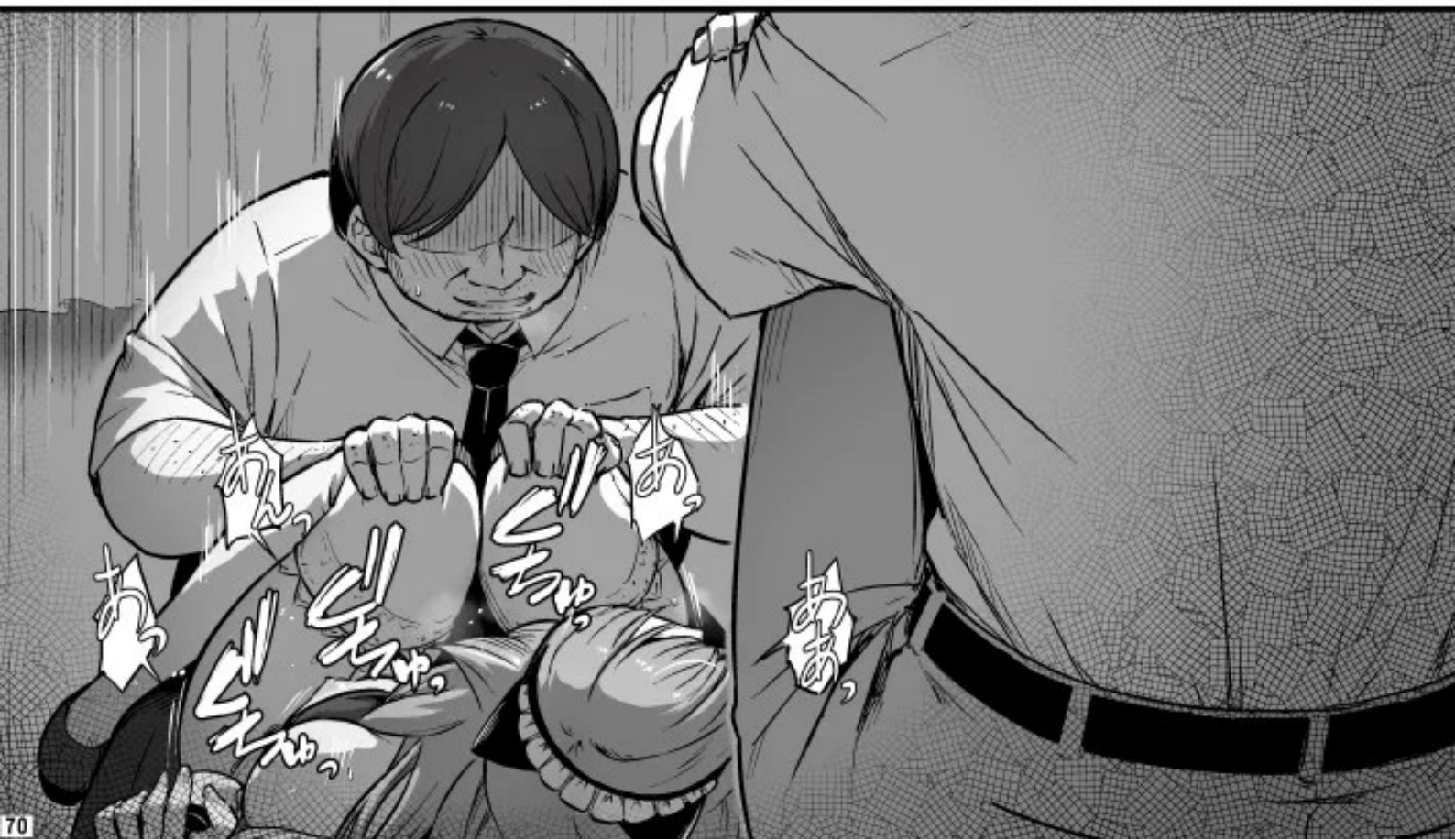
あああ!!



どうだ分かったか

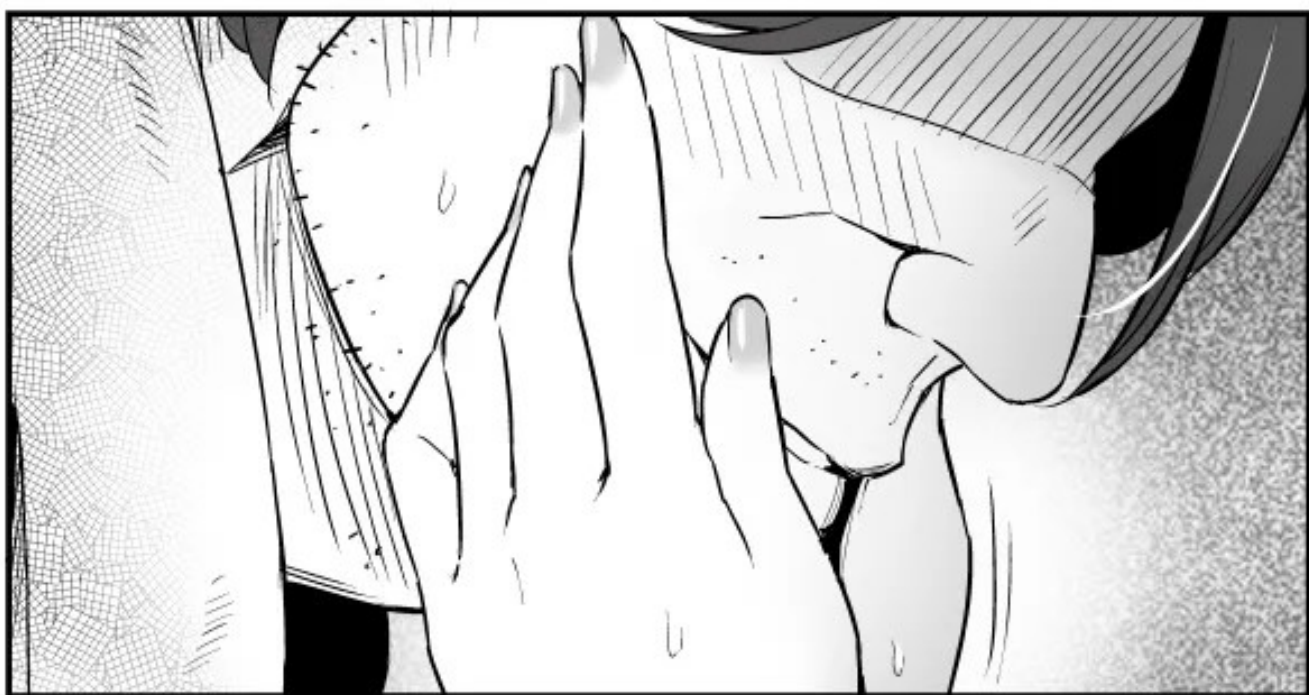
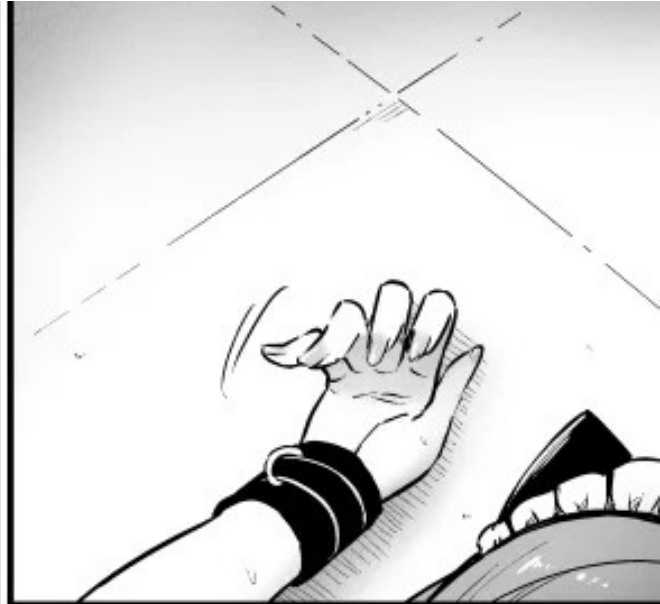
おまえは
辻なんかより

僕を
愛しているんだ









「少し屈んで？」



「...そう」



「じつと
しててね...」



